

3

Once upon a time, there was a young hunter called Minokichi.

Minokichi and his father Mosaku, who was also a hunter, always climbed the mountains with their guns.

It was one day in winter.

The two went into the mountains with their guns, as usual.

It had been snowy since the morning and as time went by the snowfall became heavier and heavier.

The snow and the wind blinded their surroundings and they lost their way, which was unusual for them.



5

After wandering around in the mountains, they found an old cabin.

“Ah we’re safe now. Let’s sleep here for tonight”

“Yes, father.”

They must have been so tired that they fell asleep deeply right after lying down in the cabin.



むかし むかし、みのきち という、
わかい てっぼううちが いました。

みのきちは いつも、
ちちおやの しげさく と いっしょに、
てっぼうを もって やまに のぼっていました。

ある、ふゆのひの こと。

ふたりは いつものように、
てっぼうを かついで やまに はいりました。

そのひは あさから ゆきが ふっていて、
そのゆきも、じかんと ともに
どんどん つよくなってきました。

ゆきと かぜで めのまえが まっしろに なり、
ふたりは めずらしく、
みちに まよってしまいました。



しばらく やまの なかを さまよっていた
ふたりは、やがて ふるい やまごやを
みつけました。

「おお、たすかった。きょうは ここで やすもう」

「はい、おっとう」

ふたりは よほどつかれていたのか、
こやに はいって よこになった とたん、
すぐに ふかく ねむりこんで しまいました。

